

【会議録】

会 議 名	第3回みんなでまちをよくする「ミナヨク」事業支援業務委託事業候補者 選考委員会
開 催 日 時	平成31年3月14日(木) 午後1時から午後3時まで
開 催 場 所	麻布地区総合支所 第1会議室
委 員	出席者 4名 有賀委員長、鈴木副委員長、吉田委員、橋本委員 欠席者 1名 上村委員
事 務 局	港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当
会 議 次 第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配 付 資 料	資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表 資料3 第二次審査における質問事項(案) 資料4 第2回選考委員会議事録概要 資料5 第一次審査・第二次審査集計結果(※採点終了後、机上配布) 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 選考方針 参考資料3 仕様書(案) 参考資料4 A事業者・B事業者 企画提案書

会議の結果及び主要な発言

(発言者)	1 開会
事務局	(事務局より配布資料の確認)
	本日の選考委員会はみんなでまちをよくするミナヨク事業運営支援業務委託事業候補者選考委員会設置要綱の第6条2項に基づき、委員の過半数の出席があるため有効に成立します。なお上村委員は、公務のため欠席となります。つきましては、第二次審査は4名の合計得点で決議とさせていただきます。
	2 第二次審査実施概要について
	(事務局より説明)
	3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施
	(A事業者入室、プレゼンテーション)
A委員	それでは、質疑応答の時間とさせていただきます。
B委員	今回このミナヨク事業に応募した動機は何ですか。
A事業者	芝にオフィスを構えていることもあり、もともと関心を持っていましたが、私どもの理念とこの事業内容が合致していました。いかに温かさを感じられるコミュニティを増やせるか、居場所と仲間を感じられるような繋がりを創出できるか、そして人の心の拠り所となるような繋がりをつくれるかということが、私どもの理念です。特に都市部における地域コミュニティの大きな変化に対する解決策を生み出していかなければという危機感も相まって、コミュニティを活性化し、そこに参画する人を育てることの両面を達成できる事業だと思い、応募しました。
B委員	従業員が9名ということですが、人材育成はどのようにされていますか。
A事業者	インストラクターとしての養成プログラムを実施しており、講師ファシリテーターとしてもスキルアップできます。また、私どもの理念や地域社会への課題意識について理解を深めていく研修に加え、今後どう生きていきたいかを考える場を年に数回もち、スキルを身につけることとマインドを高めることの両面を行っています。
C委員	修了生が地域活動に継続して参加するきっかけづくりという事業目的に対し、横の繋がりを生む交流と提案がありましたが、この部分を詳しく教えてください。
A事業者	自己開示をすることが受講生同士の距離を近づかせると実践から学んでおり、近況報告し合う時間を必ずとります。講座はグループワークをメインで行い、可能な限り地域の方々にも来ていただき一緒に学んでいくことで、麻布に根を張っていくことを考えています。また、PIAZZAのグループ機能も活用して交流を図ります。加えて、組織運営についての講座や相互理解を深めるようなワークショップを通じて、ともに高め合い、運営についても相談し合えるような関係性を創出できればと思っています。
D委員	講座に地域の方々に来ていただくという説明がありましたが、町会、商店街などと、どのような関係性を持って進めていくのかをもう少し教えてください。

A事業者	最も重要なことは、フィールドワークです。30代前後の方々と、ずっと地域のコミュニティを守ってきた方々が触れ合う機会はありませんので、地域の方々へのインタビューを通じて距離感を縮めていくことが、最も大きな関わりになると思います。できればそのイベントの企画設計の際にも地域の方に入ってもらい、受講生のアイデアを麻布という地区に落とし込めたいと考えています。
D委員	さまざまな方の持ち味を生かしながら育てていく事業だと思いますが、流入人口が多く、色々な価値観を持っている人がいる中で、交流を図るのは非常に難しいと思います。これまで区でもコミュニティ形成系の事業をやってきましたが、なかなか根付かないという実態があります。具体的に、参加者間で交流を深める方法と、事業終了後も繋ぎとめていくという工夫があれば教えてください。また、これまで実施した事業の中で事例があれば教えてください。
A事業者	人それぞれ違う考え方、価値観があることをワークショップやグループワークを通して理解することで、異なる価値観を尊重できるようになることがまず第一歩だと思います。また、事例としては、子育て世代の男性が何か地域に関わりたいたいと思っても、その情報の入手方法がわからなかったということがあり、現在数名でウェブサイトの立ち上げを準備しています。このように、近い世代や価値観の方が自然と協働し、その後に繋がる活動が生まれた事例があります。一方で、全く違う世代や価値観の方が一緒にできる企画が進む事例もあります。いずれも、受講者の方々の自発性から生み出していけるようなファシリテーションを心がけたいと思います。
D委員	SNSを活用したコミュニケーションについて、炎上などの緊急的な対応や、過去にリカバリしたケースがあれば教えてください。
A事業者	過去に受講者同士が対立してしまったことがありました。私どもは受講生にコミュニケーションを任せるというスタンスでしたが、その時は、講師が緊急的に介入し対処しました。その後、皆さんで話し合い、コミュニケーションをとっていく上での簡単なルールを作り、交流活動を再開しました。
D委員	提案書に緊急時の対応について書かれていませんが、そういう事案があった場合には対応していただくということでもよろしいですか。
A事業者	当然想定しております。この事業が終わった後にも起こりうるので、間に入り、繋がりをつくっていく必要があると考えています。
A委員	港区、特に麻布地区についてどのようなイメージや考えを持っていますか。
A事業者	古くからの町会、自治会、商店街の自力があると考えています。麻布地区は、その強さが非常に強固だと認識しています。一方で、流動性の高い現役世代も存在しているギャップもあります。両者の距離を縮めていくことが必要だと思いますし、講座を初めとしたきっかけづくりをする必要があると考えています。
A委員	担い手不足について、麻布に限って言えば、何が原因だと思いますか。
A事業者	町会、自治会、商店街には、長い歴史の中で作られた仕組みや経験則、役割がかなり強固に存在します。だからこそ守られてきた部分もありますが、若い世代はそこに入るのが大変だというギャップがあります。また、その中に取り込まれるのではなく、自分たちの子育てや働くペースを守りながら活動したいというところがミスマッチになりうると思います。
A委員	そのような感想を持たれている中で、事業をやっていただけますか。
A事業者	自信はあります。地域の方々にとっても、現役世代の考え方やライフスタイル

	<p>に触れたり、ハブ役となる私どもが町会自治会の方々と関係性を結びながら、少しずつ相互理解を作っていく努力をすることで達成可能と考えています。</p> <p>(質疑応答終了、A事業者退出。各委員による採点)</p> <p>(B事業者入室、プレゼンテーション)</p>
B委員	今回このミナヨク事業に申し込まれた動機を詳しく教えてください。
B事業者	いくつか実績をお話ししましたが、まちの活性化をやっていきたい、地域イノベーションに取り組んでいきたいという思いがあります。弊社は全国サポートしており、色々なエリアをどんどん活性化していくことがミッションだと思っています。その中で今回応募させていただきました。
B委員	さまざまな参加者が多いと思いますが、麻布地区も子供の数が増えて、子育て世代も増えていますが、そういった人たちが参加しやすい工夫などがあれば教えてください。
B事業者	13時半から16時という時間帯を設定することで、例えばお昼ご飯を食べてから子供と一緒に出るといったことがしやすくなっています。また、曜日についても相談させていただきますが、土日で設定したいと思っています。
C委員	説明の中で、地域の高齢者という話がありましたが、どのように設定を作っていくのか、また、既存の活動主体である町会、自治会、商店街についてどう考えているか教えてください。
B事業者	メンバーの課題認識によると思います。例えば、商店街のお店が閉まってビルになってしまうといったことを課題に持たれる方は、その町が好きだと思いますので、少しずつお店に伺ったり、町会の行事に参加したりしてコネクションを作っていきたいと思います。地道な活動になると思いますが、まずはごあいさつをするとか、そういったところから始めていきたいと考えています。
C委員	地域の活動にメンバーの方や修了生が主体的に関わっていくことをこの事業の大きな目的として捉えています。企画提案の中で一番自信を持っているところや効果的だと思うところは何でしょうか。
B事業者	プログラムを2回行うことを基本としています。1回目は何から始めていいかわからなくても、2回目の時には自主的に活動し、課題を少しずつ見つけていくのではないかと思います。
D委員	フレーミングが非常にわかりやすく、よく整理されていると思いました。一方で、地道な活動を通じて、町会、自治会等と交流を続けていくという話がありますが、具体的に参加者間で交流を深めてそれをまた地域で交流を深めていくというプロセスがよく見えなかったもので、具体的に地域の交流と参加者間の交流についての内容を説明していただけますか。
B事業者	参加者間の交流は、アイスブレイクだけで2時間半とり、いろんな方と対話する時間を作っています。また、時々チームを変えることも考えています。自治会などは、やはり地道に商店街を回ったり、公園を巡ったりということを考えております。
D委員	そのサポートをしていただけるということですね。ヒルズマルシェの発表以外の自主活動に向けた方法はありますか。
B事業者	はい。ホームページを見ると、ヒルズマルシェの活動が一つのポイントだと考えております。そのため、マルシェ主催者と提携する活動も一つあると考えてい

D委員	<p>ます。また、商店街の活動などを紹介して興味を持たれた方がいれば、商店街のお祭りで何かを出すといった活動もいいと思います。</p> <p>SNSを活用する方が多いと思いますが、色々な方が参加する中で、炎上などが起きた場合の対応やリスク管理についての考え方、これまで対応した事例があれば、お話しください。</p>
B事業者	<p>参加者間でのコミュニケーションはクローズドなネットワークで行っていますし、リアルタイムで会う機会もありますが、もし何かあれば、一緒に話し合いをしたいと考えています。また、商店街の活動などを発信する際は、なるべくフラットな目線で表現するようにしています。万が一何か起こった時は、当然会社として責任を持って対応します。炎上ではないですが、過去にクレームを受けた際には、担当の我々にすぐ情報が入り、謝りに行くなど迅速に対応しました。そういったリスク管理をしていますので、ご安心いただければと思います。</p>
A委員	<p>大田区の取り組みはなかなか面白いと思いますが、大田区の中でこの事業の位置づけはどのようになっていますか。</p>
B事業者	<p>目玉事業と伺っています。エリアが3つあり、各エリアに異なる企業が担当しています。エリアごとに各企業の特徴を出していくということで、来年度も継続して実施して欲しいと伺っています。</p>
A委員	<p>地元にも受け入れてもらって、地元は前向きに考えてくれているという理解でよろしいですか。</p>
B事業者	<p>はい。</p>
A委員	<p>この事業は地域協働という視点で取り組んでいきたいと思っていますが、そういう視点で、何が一番大事だと思いますか。</p>
B事業者	<p>「産学連携」や「協働」というような言葉が発生する背景にはもっとそこをうまく一緒にやって欲しいという思いがあると思います。我々は、所属の方との境界を埋める役割を担うことが一番大事だと思います。</p>
A委員	<p>この事業を麻布地区のこういったところを対象にやっていきたいですか。</p>
B事業者	<p>少し古めの部分を対象にしたいと考えています。新しいところのコミュニティは、対面で話すことによる温かさみたいところがなく、企業によっては移転をすることも想定されます。そういった意味で、麻布地区のように昔ながらの方々が住まわれているところで、コミュニティを強化していきたいと考えております。</p> <p>(質疑応答終了、B事業者退出。各委員による採点)</p>
	<p>4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について (事務局より採点結果の発表)</p>
A委員	<p>それでは審査に当たりまして、各委員から講評をお願いします。</p>
B委員	<p>A事業者は芝に事業所があるにもかかわらず、麻布について何も把握していないというか、事前調査をしていないと思いました。責任者の方1人で来て説明しており、体制にも不安があります。また、回答が端的でなく、何を言いたいのか要旨が伝わりませんでした。B事業者については、あれだけの人数でこられて、回答も端的で、体制も安心できるということで、B事業者の方の評価を高くしています。</p>
C委員	<p>A事業者は、業務理解と落ち着き、安定感の評価できると思いますが、説明が</p>

D委員	<p>長く、また、実現性があるのか疑問をもちました。B事業者は、体制、業務理解、提案の実現性および発展性において、A事業者よりも少し上という印象を持ちました。総合的にはBを少し高くつけています。</p> <p>私は両者とも同じ得点となりました。相対的な評価ですが、A事業者はB事業者よりも、町会、自治会、商店街を見据えた地域コミュニティの活性化の発展性が期待できる内容だと思いました。一方、B事業者はビジネスライクな面があり、商店街振興が、町会、自治会、商店街のコミュニティ活性化に繋がるというイメージができなかったところで点数を低くつけました。しかしB事業者は、上役の方からのフォローやコメント等もあり、体制としての安定感があったと思いました。</p>
A委員	<p>A事業者の説明は中身がないという印象です。これは実績の差もあるかもしれませんが、「こういうところを任せて欲しい」という力強さに欠けていました。B事業者は、経験も豊富で、我々の要求を手堅く受けてくれる気がしました。誰を相手に事業をすすめるかという質問に対しても、地元に基づいた取組をしていきたいとのことで、信頼が持てると思いました。以上です。それでは各委員から講評をいただきましたので、評価に変更があるようであれば、意見を言っていたらと思います。</p> <p>(評価の変更なし)</p>
A委員	<p>審査の結果、当委員会としては、B事業者を事業候補者として選定することによってよろしいでしょうか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
A委員	<p>それでは、B事業者を事業候補者として選定します。なお、A事業者は次点という扱いにしてよろしいでしょうか。</p>
一同	<p>異議なし</p> <p>5 その他 (事務局より事務連絡)</p> <p>6 閉会</p>